

植物切手ベスト50!!

美しい花切手を中心に、世界中で数多くの切手が発行されている“植物切手”。今回はJPS植物切手部会にご協力をいただき、“植物切手”ベスト50!!”をご紹介します。花切手からキノコ切手まで、美しく優雅な植物切手の数々をお楽しみください。

【構成・監修】JPS植物切手部会

1位

収集家を魅了する“純白の大輪”

ハス(マカオ・1953年)

スイレン科の多年草で池沼に生える。ハスは仏教国では「蓮華」と呼び、泥の中から咲き出して清らかに香る花は、仏陀の教えを祝福する天華であるといわれる。マカオの花シリーズ10種のセットのうち、純白の大輪のこの花はとくに際だっている。印刷は当時切手の印刷にしばしば見られたスイス・クールボアジェ社によるグラビア印刷であるが、出来映えがすばらしく、発行以来、植物切手の中では評価がきわめて高い。



2位

日本が世界に誇る花切手

ハナショウブ(日本・1961年)

アヤメ科の多年草で「花菖蒲」と書く。花シリーズ12種の6月の花として登場した。端麗な姿の2品種が美しく描かれている。ハナショウブは日本に野生するノハナショウブ(現行の420円切手)から改良されたもので、江戸時代以降、作出された品種は300~400品種に達している。品種の系統に江戸系、肥後系、伊勢系などがあり、湿地に群植したり、鉢植えなどで鑑賞する。



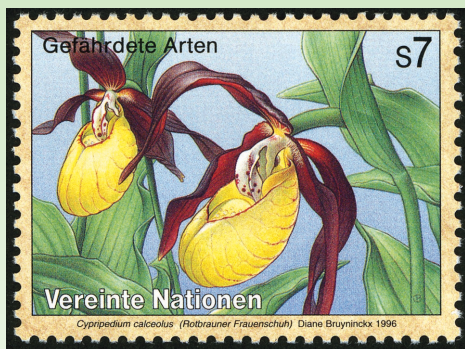
3位



昔から人気の高い植物切手の定番 エーデルワイス(オーストリア・1948年)

キク科の多年草。アルプスの石灰岩地帯に分布し、白い綿毛で覆われた姿は高山植物の代表にふさわしい。花の名はドイツ語で「高貴な白」という意味で、花形から「アルプスの星」とも呼ばれる。日本ではウスユキソウ属の仲間として、高山帯に8~9種分布。付加金付き花シリーズ10種セットの最高額で、昔から最も人気のある植物切手のひとつ。

4位



カラフトアツモリソウ (国連/ウィーン事務局・1996年)

北半球に広く分布するが、自生地が減少しているラン科の多年草。褐色の翼弁と黄色の袋状の唇弁が特徴的である。本種は北海道東部にも稀に自生し、また同じ仲間にあふると切手になった「レブンアツモリソウ」がある。国連が発行する植物の絶滅危惧種シリーズ12種(3種類の田型セット)の一つ。



バオバブ (仏領西アフリカ・1954年)

パンヤ(キワタ)科の高木。太い特徴のある幹をもち、上部で大きく枝を広げる。常緑樹であるが、乾季には一時的に落葉する。熱帯アフリカに分布。大型の航空切手の一つとして発行され、星の王子様に登場する“怪物のような”堂々たる姿が力強いタッチで表現されている。

8位

5位



ポタン (中国・1964年)

ポタン科の低木。ポタンは中国を象徴する国花であるが、重厚な花容は世界各地でもてはやされ、きわめて多くの品種が作出されている。花は紅色系を基本とするが、交配によって黄色花も作出されている。このシリーズは15種と小型シート1種で構成されているが、とくに小型シートのものは大輪の花を掛け軸風に格調高く描いており、人気が高く、入手はきわめて困難である。[75%]

*切手解説(1~45位)、奥田重俊氏。

◎はじめに

本年は、春から初夏にかけて切手の博物館で「切手でガーデニング」展が開かれ、またこの度はくベスト50に植物切手が選ばれ、植物切手部会にとってまさに当り年です。植物切手は、方寸に表現された究極のボタニカルアート(植物画)であり、極限の植物図鑑ともいえます。選び抜かれた“百(五十)花繚乱”の世界をお楽しみください。

◎植物切手小史

まずは植物切手の変遷をご紹介します。最初の植物切手は、1851

年ノバスコシア、ニューブランズウィック(当時英領、現カナダ)から発行されたものです。郵便行政が英国から州政府に移行される際の最初の切手で、王冠を中心に英連合王国の紋章の花3~4種が描かれ、当時では珍しい正菱形です。

このように植物切手は、150年余の歴史を持っていますが、当初の50年間、1800年代後半における発行数はごく僅かです。その中



最初の植物切手

で、1886年西サモア発行の自然のココヤシを描いた切手は、本格的な「純植物切手」の誕生といえます。この切手に続いて、リベリア、ベルギー領コンゴ、キューバ、トンガから、アブラヤシ、ダイオウヤシ、パンノキなど熱帯の有用樹木を描くものが発行されます。

そして、このテーマは20世紀へと続きます。その100年の流れを追って見ましょう。



ココヤシ (西サモア・1886年)



バラ(モナコ・1980年)

6 位 バラ科の低木。美しい花を咲かせるバラは、植物切手にもっとも頻繁に登場している。ここに選ばれたバラは、モナコ・グレース公妃に献名された品種「グレース ド モナコ」(1956/メイアン社)である。この切手は国際生け花コンテストの記念として発行されているが、グレース公妃は日本の生け花に大変興味をもたれたという。のちに、別の品種の「プリンセス ド モナコ」(1982/同)も献名されたが、公妃はこれを持たず事故で他界した。なお、この2つの品種は、1995年発行の公室ゆかりの花12枚をセットにした切手帳にも登場している。



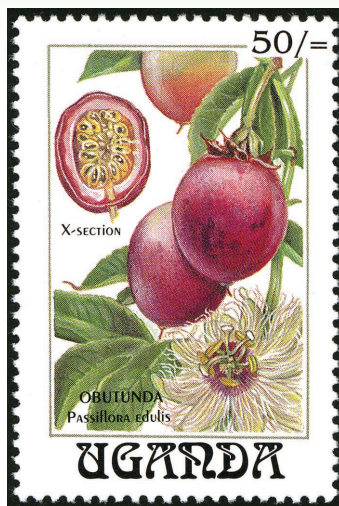
クロッカス(スイス・1945年)

アヤメ科の多年草で、ヨーロッパの山岳地帯に自生する白花種である。クロッカス属には多くの種類があり、改良された品種は早春の花壇を可憐に彩る草花として広く栽培されている。1943~49年に発行された児童福祉のための慈善シリーズ切手の一つ。



カンツア(ボリビア・1962年)

ハナシノブ科の低木で、アンデスの高地に生育し、黄色やオレンジ色の筒状の花を下垂させる。ボリビアとペルーの国花。現地語で「カンツータ」という。8種セットのうちの一つ。カンツア属の3枚を組み合わせた小型シートがある。



10 位

パッション・フルーツ(ウガンダ・1993年)

トケイソウ科のつる植物で、ブラジル原産。和名は「クダモノトケイ」といい、卵形の果実は食用、またはジュースとして飲料になる。この仲間は花が時計の文字盤のようなので一般に「トケイソウ」と呼ぶが、「パッション」は、キリスト受難のいばらの冠を想起させることによる。作物・果物シリーズ8種の中の一つ。

1. 熱帯特産物切手の急増: アフリカ、中南米、南太平洋諸島の熱帯諸国で、ヤシ類のほかタコノキ、タビビトノキ、リュウケツジュなど特異な樹木、さらにはゴム、コーヒー、カカオ、タバコ、サトウキビ、バナナなど特産物の栽培・収穫がテーマとなる。

2. 国花切手の登場: 1925年ボリビア、1937年コスタリカ(19位、以下、丸数字で表記)、1939年グアテマラから発行され「純花切手」の先駆けとなる。

3. 花シリーズ切手の発行: 1940

年スロバキア、1943年スイス⑦、1948年オーストリア③、1949年フィンランドと、ヨーロッパ諸国から日常の花をテーマとする花シリーズが発行される。スイスのグラビア多色刷りやオーストリアの凹版多色刷りは、図柄の良さもあり、その後の花切手の模範となる。

4. 切手テーマの拡大: 花と並行して身近な作物(穀類・野菜など)や果物、薬用植物、さらには樹木切手の発行が徐々に広がる。

5. キノコ切手の出現: 1958年ルーマニア、チェコスロバキア(✕

ノコ①)、1959年ポーランドから突然発行(5~10種セット)され、その後の爆発的発行の出発点となる。

このように、1950年代中頃、ほぼ50年前には植物切手の役者は出揃います。日本がこの絵舞台に上がったのは1961年で、出し物は月々の「花12種」②でした。出色の出来栄で、まさに華々しいデビューです。

その後、発行国数の拡大、セット種数の増加、連刷シートの多発など、トピカル切手全般の流れに乗って発行種数が激増していま



11位

**ドイツトウヒ
(フィンランド・1995年)**

マツ科の高木(針葉樹)でヨーロッパ中部に分布し、均整のとれた樹形なのでクリスマスツリーとして親しまれている。林業研究機構の第20回国際会議を記念して発行された田型連刷のうちの一枚で、雌の花穂が美しく描かれている。



12位

**ヨウシュフクジュソウ
(ハンガリー・1950年)**

キンポウゲ科の多年草。欧州からシベリアに分布し、春開花する。同じ仲間のフクジュソウ(福寿草)は日本の正月の花として親しまれる。ハンガリーの植物切手の代表格である大型図案の5種セットの一枚。



13位

ジギタリス・アイルランド・2006年
ゴマノハグサ科の草本で、ヨーロッパの針葉樹林帯の草原に生え、薬用植物としても有用な植物である。和名は「キツネノテブクロ」。アイルランドは、最近普通切手にこのような美しい切手を各種発行している。5種のうちの一枚。



14位

**オンシジウム
(ベネズエラ・1962年)**

ベネズエラからペルーにかけて分布する野生ラン。高さは1mほどになる。蝶のような花形から、学名の種小名は「パピリオ(蝶)」である。英名も「バタフライオーキッド」と呼ぶ。バックが黒地で構成される18種のランセットの一つ。



15位

〔11～20位!〕

16位



ルリタマアザミ(英国・1987年)

キク科の多年草で、球形の特徴的な花が斬新なデザインで描かれている。同じ仲間、日本にはヒゴタイ(ふるさと切手九州7県版熊本)が野生している。4種セットの一つ。

キク(中国・1960年)

キク科の多年草。原産は中国であるが、日本の国花でもある。作出された品種はきわめて多く、花の大きさ、花びら(それれが一個の花である)は変化に富んでいる。キクシリーズ18種の一つ。本シリーズもなかなかの入手難である。

す。この中で新感覚のデザイン⑩⑪の参入が目目されます。

日本では、その後1984～86年の「高山植物シリーズ14種」⑩と続きます。次いで、ふるさと切手が発足し、1990年の「都道府県の花47種」以降、続々と発行されていますが、一部を除き粗製乱造の感を免れず残念なことです。新たにスタートした郵便事業(株)の奮起を期待します。

◎〈ベスト50〉選定の方法

植物切手の世界での発行数については、純植物切手およびそれに準ずるものに限ってみると、およそ35,000点(内キノコ4,000点)という膨大な数になります。この中から〈ベスト50〉を選定するのは容易なことではありません。

選定においては、まず「植物部会が選ぶ」との趣旨に沿い、全会員にアンケートを実施し、次いで

その集計を基に選定会で50点を選定することとしました。

アンケートに当たっては、会員の収集範囲をみると植物全体を対象とする方は限られていることから、4グループ「A. 花」、「B. 樹木(盆栽除く)」、「C. 作物・果物」、「D. キノコ」に区分し、A25点、B～D各5点を選んでもらいました。

選定の基準は、デザイン(図柄と印刷)の良否を基本とし、場合によ

コラム① 小さな命の営み

通常、「植物」という言葉から連想されるのは、身近な「花」や「木」であり、植物切手の世界もこれらの「種子植物(花や木)」の切手が膨大に発行されています。

それに対して、植物進化において重要な位置を占める「藻類」、「コケ」、「シダ」などの切手は決して多くはありません。中でも、水界における食物連鎖の最初の環となる「植物プランクトン」や、地球環境に大きく関わったとされる「藍藻(ストロマトリ



左・植物プランクトン(ワリスフテュナ・1981年)、
右・藍藻の化石(カナダ・1990年)。
[70%]

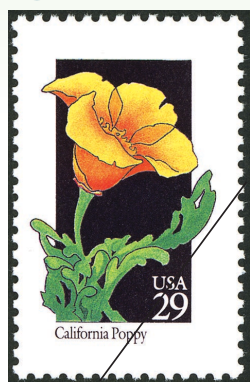
ト)についてはどうでしょうか。

海洋生物や化石の切手を中心に丹念に探し求めると、種が特定できるものでは10種ほどが発行されています。泳ぐもの、発光するもの、動物の組織内に共生するものなど、その生態にも興味をひかれますが、い

ずれも水界の生産者として大きな役割を担っています。

最初の酸素を排出し、現在の地球大気を作った生物とされる「藍藻」など、悠久の歳月にわたる小さな命の営みは、大自然そのものを教えてくれます。(文・石田 徹)

17位



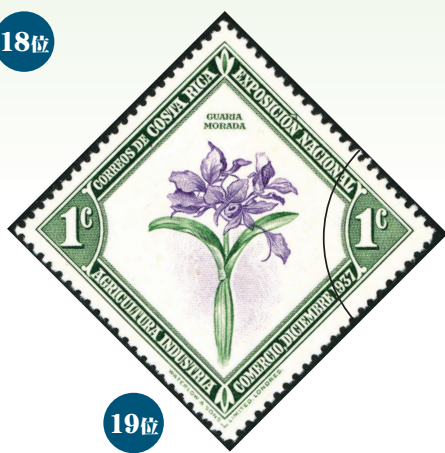
ハナビシソウ
(アメリカ・1992年)

ケシ科の一年草。カリフォルニア州の州花で、「花菱草」と書く。改良された品種が広く花壇に栽培され、春に開花する。50州の花シリーズの一つ。



ブドウ科のつる性の高木。ワイン製造用の品種と思われる。背景に古代のレリーフ。2種セットの一枚。東欧諸国にブドウ切手が多い。

18位



カタレア(コスタリカ・1937年)

カタレアはラン科を代表する属であるが、本種はカタレア・スキネリで、中南米に分布し、樹上に着生する。同国の国花である。発行後70年を経過しているが、凹版印刷の洗練された図柄は今も根強い人気がある。国際農工産物博覧会記念5種のうちの一枚。[110%]

19位



ヒダカソウ(日本・1985年)
キンポウゲ科の多年草で、北海道日高地方のアポイ岳とその周辺の蛇紋岩地帯に分布し、岩場に生える。近年個体数が激減し、絶滅危惧種に指定されている。高山植物シリーズ14種の一つ。

20位

っては発行年・発行目的などを考慮すること、セット(シリーズ)単位で評価したうえで、その中で最も優れたものの1点を選定することとしました。

選定会(会員5名と編集部)においては、アンケート結果について植物の種別、国別にリストを整理したうえで、種別リストを基に、グループ別に投票数の多いもの(投票数は少ないが優れたものを含む)を候補

とし、まず約100点を選定し、次いで50点に絞込みました。

この場合の基準は、前述のデザインの良いものをベースに、①できるだけ多くの植物種・国々とする、②同一セットからは1点のみとする、③場合によっては発行時期・目的あるいは意義を考慮する、④順位は「植物界=花など(45点)」と「菌界=キノコ(5点)」に区分して行なうこととしました。最後に順位

を決めましたが、選び抜かれた50点はまさに甲乙つけ難しでした。

◎ベスト50選定の結果

選んだ50点、いかがでしょうか。45ヵ国から50の植物種が選ばれています。草本類(低木含む)30種、樹木7種、果物7種、シダ類1種、キノコ類5種です。

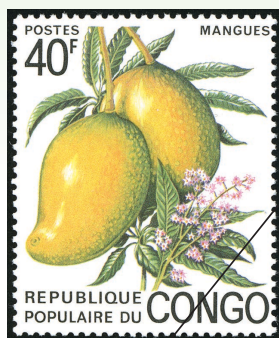
樹木分野では森林を、果実分野では作物(穀物・ゴムなど)をも対象にしましたが、投票数も少なく採

21位



ヒメノカリス(ペリーズ・1999年)

ヒガンバナ科の多年草で、熱帯アメリカ原産。花の中心部の副花冠と細い花びらの対比が奇妙である。「パンクラチウム」とも呼ぶ。4種セットの一つで、イースターの発行。



マンゴ(コンゴ・1974年)

ウルシ科の高木。インド原産の熱帯果樹で多くの品種があるが、図案は経済的な品種であるアルフォンソ種であろう。沖縄で栽培されるものは、アーウィン種(通称アップルマンゴー)。果物を描く7種のうちの1つ。

22位



キョウチクトウ (ユーゴスラビア・1967年)

キョウチクトウ科の小高木で、インド原産。有毒植物で花言葉は「危険」。この薬用植物シリーズは、1955年から断続的に発行され、合計66種に達している。

23位



チューリップ (トルコ・1998年)

ユリ科の多年草。チューリップ属は、中央アジアから北アフリカに150種ほど分布する。16世紀、トルコからヨーロッパへ紹介された。球根花卉の代表で、多数の系統や品種がある。チューリップを描く4種セットの一つ。

26位



シロユリ (サンマリノ・1957年)

ユリ科の多年草。純白の清純な花は、処女マリアのシンボルとして「マドンナリリー」と呼ばれ、キリスト教の聖花に使われている。チタノ山を背景に、花を描く10種セットの一つ。

〔21位～〕

25位



レイツツリー(セントルシア・1984年)

マメ科の高木で、熱帯地方の都市の街路樹に利用される。テレビコマーシャルでご存じの「気になる木」であるが、雨天には葉を閉じるのでこの名がある。和名は「アメリカネム」。樹木を描く4種の一つ。

27位



カキ(韓国・1974年)

カキノキ科の高木。カキ(柿)は日本原産の果樹。果物シリーズ10種の一つで、見事に熟した柿を描く。10種のそれぞれに2枚を含む小型シートがある。

択には至らず、選ばれたのは全て1種のみを描く純植物切手となりました。

また発行時期は、1937年のコスタリカ(カトレア)⑪から2006年のアイルランド(ジギタリス)⑬までの約70年間となっています。150年の歴史のほぼ後半から選定されています。これは、先述の国花切手＝純花切手の登場以降に当たります。それ以前にも植物切手収集の視点からは重要な切手もあり、単色ですが古典的風格を感じる名品もあります。しかし、多色刷り

との並びにはなじみ得ず、同列で順位を付けることには無理があると痛感しました。

ちなみに、50点のうち『世界植物切手図鑑』(JPS・1984年刊)に掲載されている1980年以前に発行された切手と、それ以降のものはちょうど半々になっています。切手の発行数は、1980年以降の方がかなり上回っていることからみて、1980年以前の切手の素晴らしさを再認識させられました。

50点を並べると、一見原色植物図鑑のようですが、図鑑とは異なる

った親しみ、魅力を感じます。そこにはボタニカルアートの世界が広がっています。

◎おわりに

一連の作業が終わった後も、選定に漏れた切手が脳裏に浮かびます。その切手達から落ちた悔しさが聞こえてくるようです。植物切手部会の新たな活動として、今後はバラ、サボテン、野菜、コーヒーなど分野別に〈ベスト10〉を選定し、機関紙『植物切手』に掲載したいと考えています。皆様の参加をお待ちしています。(文・羽賀正雄)



28位 孔雀サボテン
(東ドイツ・1989年)
サボテン科の低木。エビフィ
ルム属月下美人の仲間とほかの
数属の交雑種で、大輪の花を咲
かせる。3種セットの一つ。



29位 オウシュウブナ
(フランス・1985年)
ブナ科の高木。ブナの全形や花の
各部分などを細密に、しかも色の数
を抑えながらポタニカルアート風に
描いている。4種セットの一つ。



アジサイ(日本・1966年)
ユキノシタ科の低木。
小型の図柄ながら花のボ
リューム感がよく表現さ
れている。第一次新動植
物国宝図案切手の一枚。



セイヨウタンポポ
(アイスランド・1960年)
キク科の多年草で、春の
野草として親しまれ、日本
にも広く生育。図柄の左に
種を模様風に描く。1960
年から発行された普通切手
10種のうちの一枚。



シクラメン
(西ドイツ/ベルリン・1975年)
サクラソウ科の多年草で、
年末の鉢花として親しまれ
ている。本種は野生種のマ
ルバシクラメン。社会福祉
の慈善切手として17種発行
され、いずれも縦長型に統
一し、洗練されたデザイン。



ルクセンブルク・1977年)
ユリ科の多年草。日本のスズランよ
りも花の穂が高く伸びる。野生植物保
護のための付加金付きシリーズの一つ。



テンブス
(シンガポール・2002年)
マチン科の高木。街
路樹に用いられ、枝葉
は民間薬となる。花は
白色で香りがよい。シ
ンガポール植物園に生
育する老大木を描いて
いるが、同じ木は同国
5ドル紙幣にも登場。
4種のうちの一枚。



ハイビスカス
(アイツタキ・1994年)
アオイ科の低木で、熱帯
における代表的な花木。「ブ
ッソウゲ」とも呼ぶ。数多く
の国々で切手に描かれてい
る。15種セットの一つ。



スイセン(イスラエル・1959年)
ヒガンバナ科の多年草。地中海沿
岸の諸島に分布する。和名は「フサ
ザキスイセン」。建国11周年記念3
種セットの一つ。

コラム② これでも植物切手？ その正体は...

雪だるまの頭から葉が出ている
ような図案の切手、これは何とい
う植物でしょう？ 実は「マンドラ
ゴラ」という薬草の劇画です。

マンドラゴラ (*Mandragora
officinarum* L.)は、ナス科マンド
ラゴラ属で、ギリシャの薬物誌
“De Materia Medica”や聖書に
も登場する薬用植物です。この植
物は根を引き抜かれるとき叫び声
を発し、それを聞いたものは死ぬ
との言い伝えがあります。このた

め採取に際しては、犬の首輪のひ
もを結びつけ、遠くから呼ぶと犬
は主人の下に駆け寄り、マンドラ
ゴラを引き抜くという方法をとる
とされています。

薬用の根は、人の下半身に似て
いることから、妄想と薬効が入り
混じり、薬用としては眠り薬や鎮
痛薬として用いられましたが、世
俗的には「媚薬」として用いられ
ました。実の形から「恋なすび」と
も呼ばれています。(文・谷 覺)



マンドラゴラ
(オーストリア・
1986年) [75%]



古くから伝わるマンド
ラゴラの引き抜き方法
をデザインしている。

コラム③ 見逃せない不思議な植物

〈ベスト50〉には入っていませんが、注目すべき切手があります。世界最大の花＝「ラフレシア」、最大の花序(花の集まり)＝「スマトラオオコンニャク」、最も背の高い花序・最も遅咲きの花＝「ブヤ・ライモンディー」、葉(2枚)が無限に伸び続ける＝「ウエルウィッチャ(園芸名: 奇想天外)」などです。

これらは、花や葉や根など私たちの見慣れた植物の常識が通じない植物です。分布が限られ、一般的になじまれていないこと

もあり、切手の発行国、発行種数は極少数です。しかし、デザインも優れており、〈ベスト50〉に何ら遜色ない魅力ある切手です。個々の植物を説明するスペースはありませんが、いずれの切手もその植物が自生する国々から発行されています。

これらの植物の自然の姿は、自生地にはしか見られませんが、スマトラオオコンニャクは小石川植物園で栽培され、時にはその開花が公開されています。

(文・羽賀正雄)



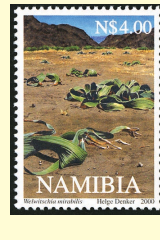
インドネシア・1993年
ラフレシア



スマトラオオコンニャク
インドネシア・1996年



ブヤ・ライモンディー
ペルー・1989年・65%



ウエルウィッチャ
ナミビア・2000年

37位



バナナ(タイ・1993年)

バショウ科の多年草。熱帯果樹の代表。日本には主にフィリピンから輸入され、輸入果物の6割を占める。果物4種のうちの1つ。

38位



メタセコイア(中国・1992年)
スギ科の落葉性の高木。1945年中国四川省で発見され、生きた化石植物とよばれる。4種セットの1つ。

39位



カンガルー・ポー
(オーストラリア・1968年)

ハエモドルム科の多年草。西オーストラリア州の州花。最近日本でも切り花として利用される。州花6種セットの一つ。

40位



サクランボ
(ボスニア・ヘルツェゴビナ・2005年)

バラ科の高木。桜桃の代表的な種。5種のうちの1つ。

41位



クサソテツ
(ロシア・1987年)

シダ植物メシダ科の多年草で、日本にも分布。コゴミと呼んで新芽を食用にする。図の茶色っぽい方が胞子葉。4種セットの一つ。

42位



ココス諸島・1988年
ココヤシ

ヤシ科の中で最も代表的な種。果実は飲料、油脂、繊維など用途が広い。ココナッツの開花から発芽までの4つのステージを描くセットの一枚。

44位



オリーブ(パレスチナ・1996年)

モクセイ科の高木。地中海や中近東などの重要な果樹。花枝と実を組み合わせ、細密に描いている。[55%]

43位



ニオイスミレ
スロベニア・2002年
スミレ科の多年草。花は香りがよく、コサージュなどに用いられる。

45位



ダーリントニア
(アメリカ・2001年)

サラセニア科の多年草。湿地に生える1属1種の植物。珍奇な姿なので「コブラリリー」と呼ばれる。和名はランチュウソウ。4種セットの一つ。



1位 ベニテングタケ (チェコスロバキア・1958年)

真っ赤な傘の上に白い斑点の愛らしい姿は、まさに「森の妖精」。ヨーロッパでは、古くから幸福のシンボルとして親しまれ、ベニテングタケを描いた切手も約120種を数え、ダントツの人気である。この切手はベニテングタケの一番切手で、初期の頃のキノコ切手にしては周辺の草や枯れ葉なども精密に表現され、1位に相応しい切手である。



2位 アンズタケ (スウェーデン・1978年)

ほのかにアンズの香りがする食用キノコ。フランス料理では、「ジロール」の名で使われる高貴なキノコである。切手帳仕立てのキノコ6種セットのうちの1種で、それぞれのキノコが山野に自生している様子が細密に描かれている。切手を眺めると、実際にその場でアンズタケを見ているようで、臨場感のある楽しい切手である。

キノコ切手



3位 ガンタケ(ベルギー・1991年)

細密に描かれているキノコ切手といえば、この切手も遜色がない。ポタニカルアート的な描写は実に見事である。日本では有毒種で食用に不向きとされているが、なぜかヨーロッパでは好んで食べられている。その証拠として、切手左下にナイフとフォークが印刷されている。[原寸]



4位 アミガサタケ (ドミニカ・1991年)

アバタ頭のアミガサタケは、形状からすれば異形だが、その姿ゆえに洋の東西を問わず人気がある。シコシコした歯ざわりが良い食用キノコで、ヨーロッパでは珍重されている。ドミニカの切手を4位にランクしたが、他国発行の切手にも素晴らしいものがいくつもあり、甲乙を付け難い。[原寸]



5位 ヤコウタケ (西サモア・1985年)

トロピカルでファンタジックなキノコ切手といえば、ヤコウタケが筆頭であろう。傘やヒダに強い発光性があり、夜になると緑色の光を放つ。日本では八丈島や小笠原諸島に多く見られ、「グリーンペペ」の愛称で、観光客の人気のものにもなっている。[原寸]

※キノコ切手解説 石川博己氏 「カ」コミ内 特記外 15% 拡大

「JPS植物切手部会」のご案内

JPS植物切手部会は、植物切手の愛好者の集まりです。会員はそれぞれ花や野菜、果物、樹木そしてキノコなどに多大な興味を持っています。

部会発足は、1969年で38年の歴史があり、会員数は約140名、会費は年2,000円です。部会の活動は、会報の発行と例会の開催を柱とし、〈JAPEX〉などで部会のPRを行なっています。

【会報の発行】

「植物切手」を年6回(奇数月)。B5判14頁。新切手ニュース、会員のアルバム紹介、各種切手の解説などをオール

カラーで掲載しており、花切手などを現物に近い色で楽しめます。表紙には切手の現物を1枚添付し好評です。

【例会の開催】

年6回(偶数月第4日曜日、午後2時40分～)、切手の博物館3階会議室にて開催。コレクション(アルバム)の解説、各種催しの打ち合わせ、その他情報交換などを行っています。

お問い合わせやご入会の手続きは下記部会世話人まで。お待ちしております。

【部会世話人】

〒300-1235 茨城県牛久市刈谷町
2-188-99 羽賀正雄
TEL/FAX: 029-871-0175



最近の会報「植物切手」